

令和7年度第2回総合教育会議 議題

担当課：学校指導課

【議題1】

議 題	質問調査から見られる白山市児童生徒の現状について
内 容	第2次白山市教育振興基本計画の基本施策5「いじめ・不登校等への対策」、基本施策6「将来の夢や目標を育む教育の推進」において、全国学力・学習状況調査等の質問調査結果を数値目標としているものに対して分析し、白山市児童生徒の現状を把握し施策に反映することで、学校教育基本方針である「感性を豊かにする教育」の充実を図る。
具体的説明	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 第2次白山市教育振興基本計画基本理念 「ふるさと白山の 未来を拓く 人づくり」 ～「感性を育む教育」を基盤として～ ○ 学校教育基本方針 「感性を豊かにする教育」 1 第2次白山市教育振興基本計画の基本施策5、基本施策6における全国学力・学習状況調査等の質問調査結果の数値目標 ＜別添資料1-1＞ 2 質問調査（全国学力・学習状況調査）から見られる白山市児童生徒 ＜別添資料1-2＞

【議題2】

議 題	「はくさん3育」の取組の検証について
内 容	第2次白山市教育振興基本計画の重点的取組と位置づけた「はくさん3育」を推進するための具体的な取組、進捗状況、検証方法、成果・課題を確認することで、学校教育基本方針である「感性を豊かにする教育」の充実を図る。
具体的説明	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 第2次白山市教育振興基本計画 重点的取組 「はくさん3育（ジオ育、食育、読育）」 1 ジオ育について＜別添資料2-1＞ 豊かな自然環境や多様な文化を活かした体験活動や遊びを通して、「知る」ことだけでなく「感じる」ことの大切さを学びます。地球と人、自然とヒト、人と人がどうつながり関わっていくべきかを考え、行動することをめざします。 2 食育について＜別添資料2-2＞ 食について学び、良好な食事の環境を整えることで、食べるだけでなく食の安全や自分の健康について興味や関心を持ちます。望ましい生活習慣を維持し、豊かな食材を育む郷土の自然や人への感謝の気持ちを養います。 3 読育について＜別添資料2-3＞ 読書活動を通じて、思考力や表現力とともに豊かな想像力を養い、感性を育みます。全小中学校に図書館司書を配置するほか、デジタルアーカイブや電子図書など、バランスの良い情報技術の活用にもつなげていきます。

1 第 2 次白山市教育振興基本計画の基本施策 5、基本施策 6 における
全国学力・学習状況調査等の質問調査結果の数値目標

基本施策 5 いじめ・不登校等への対策

■児童生徒が学校を好きと感じる魅力ある学校づくりを推進します。

数値目標項目	校種	令和 6 (2024) 年度実績	令和 14 (2032) 年度目標
*全国学力・学習状況調査で「学校に行くのは楽しい」と回答した児童生徒の割合	小学校	87.6%	90%
	中学校	86.0%	90%
*全国学力・学習状況調査で「自分にはよいところがある」と回答した児童生徒の割合	小学校	83.1%	90%
	中学校	84.1%	90%

基本施策 6 将来の夢や目標を育む教育の推進

■*キャリア教育を充実し、将来の夢や目標を持つ児童生徒の増加を図ります。

数値目標項目	校種	令和 6 (2024) 年度実績	令和 14 (2032) 年度目標
*全国学力・学習状況調査で「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童生徒の割合	小学校	80.1%	85%
	中学校	64.5%	70%
*全国学力・学習状況調査で「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と回答した児童生徒の割合	小学校	84.5%	90%
	中学校	79.2%	85%

2 質問調査（全国学力・学習状況調査）から見られる白山市児童生徒の現状

(1) 質問「学校に行くのは楽しいと思いますか」

区分	小 6	中 3
白山市 (県差)	86.2 (+0.4)	89.2 (+1.0)
石川県	85.8	88.2
全国	86.5	86.1

令和 6 年度白山市
 小学校 87.6 (県差+2.8)
 中学校 86.0 (県差-0.1)

令和 5 年度白山市
 小学校 85.4 (県差+0.8)
 中学校 85.4 (県差+3.8)

<参考> 現中 3 が小 6 時点の数値

区分	R 4 (小 6 時)
白山市 (県差)	86.3 (+3.0)
石川県	83.3
全国	85.4



<参考> 10 年前 (H 2 8) の数値

区分	小 6	中 3
白山市 (県差)	82.8 (-1.8)	83.8 (-0.2)
石川県	84.6	84.0
全国	86.3	81.4

【分析】

小・中学校ともに県平均と同程度である。3 年前（小 6 時点）や 10 年前の市内の同数値と比べても数値は向上しており、市内の児童生徒がより前向きに学校に通っていることが感じられる。

まずは、生徒指導の 4 つの視点（自己決定、自己存在感、共感的人間関係、安全安心な風土の醸成）を重要視してきたことが、この結果につながっていると感じている。特に、共感的人間関係や安全安心な風土の醸成によって、より安心できる友達関係の構築や教師との関係づくりが進んだこと、学校の教室や図書館などが児童生徒の居場所として機能していることなどが進んでいるといえる。不登校傾向の児童生徒やいじめ問題などは依然として課題であるため、その未然防止に向けた積極的な取組やより一人一人に目を向けた「個に応じた支援」を、各校に指導・助言することが重要である。

また、「分かった・できた」のある授業づくりが不可欠である。一日の大半を過ごす授業で、自身の学習状況に応じた学びの達成感を得ることは、児童生徒にとって学校に行きたいと思う何よりの動機となる。現在、市教委では「子供主体の授業」を通して、児童生徒がこれまで以上に主体的に学び、個別最適な学び・協働的な学びを通して、確実にねらいを達成する授業づくりを指導・助言している。その質を上げることが児童生徒の学校に行く「楽しさ」に直結すると考えており、今後もその授業づくりを働きかけていきたい。

(2) 質問「自分には、よいところがあると思いますか」

※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた割合 (%)

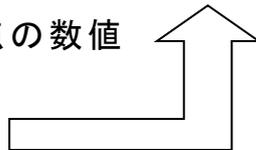
区分	小 6	中 3
白山市 (県差)	86.8 (±0)	88.2 (+0.5)
石川県	86.8	87.7
全国	86.9	86.2

令和6年度白山市
小学校 83.1 (県差+1.3)
中学校 84.1 (県差+0.4)

令和5年度白山市
小学校 79.2 (県差-3.3)
中学校 81.3 (県差+1.5)

<参考> 現中3が小6時点の数値

区分	R4 (小6時)
白山市 (県差)	74.6 (-2.7)
石川県	77.3
全国	79.3



<参考> 10年前 (H28) の数値

区分	小 6	中 3
白山市 (県差)	72.6 (-2.1)	72.0 (-0.7)
石川県	74.7	72.7
全国	76.3	69.3

【分析】

令和7年度は、小・中学校ともに県平均と同程度である。3年前（小6時点）や10年前の市内の同数値と比べても数値は向上しており、市内の児童生徒の自己肯定感・自尊感情が育まれていることが感じられる。

校内の生徒指導において、積極的生徒指導を大切にすることを継続的に働きかけてきた結果、各校で児童生徒同士の認め合いの取組や教師が意識的に児童生徒の努力やがんばりなどを褒め、認めることなどが定着してきたと考えている。具体的な取組として、児童生徒が主体となった「やさしさの木」「思いやり習慣」などの取組が行われ、他者を認めることや大切にすること、それらをふり返ることなどが大切にされている様子が見られる。

また、市教委としても、日々の授業において、生徒指導の4つの視点（自己決定、自己存在感、共感的人間関係、安全安心な風土の醸成）を重視するよう指導・助言しており、子供が主体的に学ぶ土台ができつつあると感じている。今後も、一人一人が活躍できるよう、個に応じた指導・支援を大切にして、児童生徒の自己肯定感や自尊感情につながる取組を働きかけていく。

(3) 質問「将来の夢や目標を持っていますか」

区分	小 6	中 3
白山市 (県差)	78.1 (-2.5)	65.6 (-0.9)
石川県	80.6	66.5
全国	83.1	67.5

令和6年度白山市
 小学校 80.1 (県差+0.8)
 中学校 64.5 (県差+0.7)

令和5年度白山市
 小学校 78.6 (県差-0.5)
 中学校 68.2 (県差+2.4)

<参考> 現中3が小6時点の数値

区分	R4 (小6時)
白山市 (県差)	76.5 (-0.7)
石川県	77.2
全国	79.8



<参考> 10年前 (H28) の数値

区分	小 6	中 3
白山市 (県差)	84.2 (+0.9)	71.8 (-0.7)
石川県	83.3	72.5
全国	85.3	71.1

【分析】

令和7年度は、小学校は県平均をやや下回り、中学校では県平均と同程度である。3年前(小6時点)と比べると、数値は下がっているが、発達段階に応じた変化と捉えている。一方、10年前の市内の同数値と比較して小・中学校ともに数値が低下していることから、日々の生活を目標や理想をもって日々の学習や生活に臨む必要性が感じられる。

日々の学習を、より「子供主体の授業」に変えていくことが重要である。明確な課題意識をもち、「学びたい」「やってみたい」の気持ちをもって臨むことや、その中で目標をしっかりと努力していくことなどを通し、児童生徒が主体的に学びを進める力につなげる必要がある。

また、各教科の学習において、より生活や社会との関連を意識させることも必要である。学びが自身とどうつながっているか、将来のどんなことに役立っているかを知ること、自身の将来や新たな興味・関心などに気づくきっかけにもなる。そのような視点に立った授業改善を指導助言していく。

また、各校が着実にキャリア教育を進めることも重要である。中学校では、将来の進路を意識した学習や職場体験、社会や企業などから学ぶ場などを設けている。一方、小学校のキャリア教育は、まだ課題が多いと考えている。児童が自身の特徴や興味・関心などを見つめることや、学習に関連して社会で活躍する人々の思いに触れることなど、発達段階に応じた学びの場が必要である。それらを通し、自身の生き方や未来を思い描く機会をつくっていくことが求められる。

(4) 質問「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」

区分	小 6	中 3
白山市 (県差)	78.9 (-3.1)	75.2 (-1.7)
石川県	82.0	76.9
全国	81.3	75.3

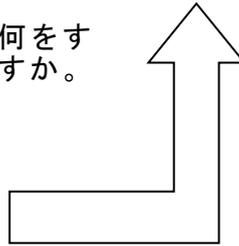
令和 6 年度白山市
 小学校 84.5 (県差+0.3)
 中学校 79.2 (県差-1.0)

令和 5 年度白山市
 小学校 77.3 (県差-2.3)
 中学校 63.2 (県差-5.0)

※地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることはありますか。

<参考> 現中 3 が小 6 時点

区分	R 4 (小 6 時)
白山市 (県差)	49.8 (-1.9)
石川県	51.7
全国	51.3



<参考> 8 年前 (H 3 0) の数値

区分	小 6	中 3
白山市 (県差)	44.6 (-7.2)	39.2 (-1.7)
石川県	51.8	40.9
全国	49.9	38.7

【分析】

小・中学校ともに県平均を下回る結果である。3 年前（小 6 時点）や 8 年前は、質問内容が若干異なることもあるが、改善傾向にあると考えている。市内の児童生徒がより前向きに地域や社会に関わろうとする姿勢が感じられる。

各校で地域と連携した学習や行事を進め、地域ならではの取組を進めてきたことがその一助となっている。市内の豊かな自然や文化を生かした教育活動が各校に根付いており、その成果といえる。また各校では、体験活動を充実させ、児童生徒が実感を伴った学びの充実にも努めている。市教委でも、市内がユネスコ世界ジオパークに認定され、白山ジオ学習として各校で必ずジオパークを関連させて学ぶべき単元を提示し、学習と地域を結びつけて考えることや、小学校のジオ学習交流会を通して、地域を見つめ発信する機会をつくることなどにも取り組んできた。

一方、それらの体験や地域とのつながりが、「楽しさ」に終始する傾向があることも事実である。学んだことがどのような価値があるのか、他市や他国に比べて白山市がどんな魅力があるのか、自分はその中でどのように関わっていくことができるのかなどといった、ふるさとに主体的に関わる態度につながるような指導の工夫やふり返りの充実などを図ることが必須である。教師の意識が変わるよう、指導・助言することが必要である。

1 ジオ育について

(1) ねらい

豊かな自然環境や多様な文化を活かした体験活動や遊びを通して、「知る」ことだけでなく「感じる」ことの大切さを学ぶ。地球と人、自然とヒト、人と人がどうつながり関わっていくべきかを考え、行動することを目指す。

(2) 主な取組

① 白山ジオ学習の充実

- ・「白山ジオ学習」の実施
- ・授業実践例の作成と活用
- ・ジオ遠足の活用
- ・ジオ学習交流会の実施

② 白山ジオ合宿に伴う合宿出前授業

- ・スーパーバイザーによる「白山ジオ合宿出前授業」を実施

③ 教職員の資質向上

- ・白山ジオ合宿指導者養成研修（市教育センター）
- ・白山市教職員ジオ研修「地遊塾（じゅうじゅく）」

(3) 学力調査結果等から見る取組の検証

① 石川県基礎学力調査 質問調査【単位：％】

- ・「今住んでいる地域の行事に参加している」
小 6：80.3(県差+5.0)、中 3：55.4(県差+3.0)

② 全国学力・学習状況調査 質問調査【単位：％】

- ・「地域や社会をよくするために何かしてみたい」
小 6：78.9(県差-3.1 国差-2.4)、中 3：75.2(県差-1.7 国差-0.1)
- ・「これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありましたか」
小 6：81.2(県差+0.8 国差+0.6)、中 3：79.7(県差+2.4 国差+4.0)

※①の地域の行事への参加は、小・中学校共に県平均を上回る結果である。しかし、②の地域や社会をよくする設問については、小・中学校ともに国・県平均共に下回る結果である。教科等の学びが実生活に結び付いていないことやジオ学習、自然体験活動を楽しんではいるものの地域に主体的に関わる態度の育成にはつながっていないのではないかと分析する。

(4) 今後に向けて

教師は、日頃より教科等の学びを実生活につなげる意識を児童生徒に育む必要がある。また、体験活動の充実が、児童生徒の地域行事に参加する行動につながる一方、主体的に地域に関わり、役割を果たそうとする態度には至っていない状況といえる。

活動の楽しさを感じるだけに終わらず、ジオ学習のねらいを明確にすることとそれを意識した活動の実施、ねらいに沿って確実にふり返ることなどを通し、学びや気づきを自覚させることが必要である。そうした教師の意識と、児童生徒の変化を見とる姿勢が重要である。また、キャリア教育とも関連させ、児童生徒が自身や身の回りを見つめ、よりよく社会に関わろうとする力や態度を育てていく。さらに、CS等を活用し、地域学校協働活動を充実させるなど、児童生徒が地域と向き合う機会を増やしていく。

2 食育について

(1) ねらい

食について学び、良好な食事の環境を整えることで、食べるだけでなく食の安全や自分の健康について興味や関心を持てるようにする。望ましい生活習慣を維持し、豊かな食材を育む郷土の自然や人への感謝の気持ちを養う。

(2) 主な取組

① 年間計画にもとづいた指導

- ・文部科学省『食に関する指導の手引（第二次改訂版）H31』
- ・教育活動全体を通し計画的に実施
- ・給食の時間における食に関する指導

② 栄養教諭・栄養職員との連携（TT）

- ・授業での連携
- ・地域の生産者等の活用コーディネート

③ 地産地消課や生産農家（地域人材活用）との連携

- ・地産地消課の出前講座
- ・社会科や家庭科、総合的な学習の時間の工夫

④ 児童生徒による働きかけ

- ・給食委員会等による校内放送、残食調査

⑤ 家庭地域との連携

- ・給食だより、食育だより、ホームページ等による啓発

⑥ 学校給食における地場産物の使用促進と食の指導充実調査研究事業（R7）

- ・地場産物の安定的な供給による使用促進に向けた調査研究
- ・地場産物の使用促進を目指した献立の開発
- ・食育推進のための動画制作と活用

(3) 学力調査結果等から見る取組の検証

① 全国学力・学習状況調査 質問調査【単位：％】

- ・「朝食を毎日食べていますか」

小6：93.6(県差-0.8 国差-0.1)、中3：94.9(県差+1.1 国差+3.7)

※①の朝食については、小学校は、国・県平均と同程度。中学校は、県平均を上回る結果である。食の重要性を認識している家庭が多いことが伺える。一方で、5％前後の児童生徒が朝食を食べていない現状もあり、成長期の健やかな成長が危惧される。

② 残食調査 ※別紙

③ モデル校（明光小、松任小、北辰中、白嶺小中）の児童生徒・保護者を対象とした食育アンケートの実施（食の重要性、給食に関わる事項、地域の特産物に関わる事項）※実施予定

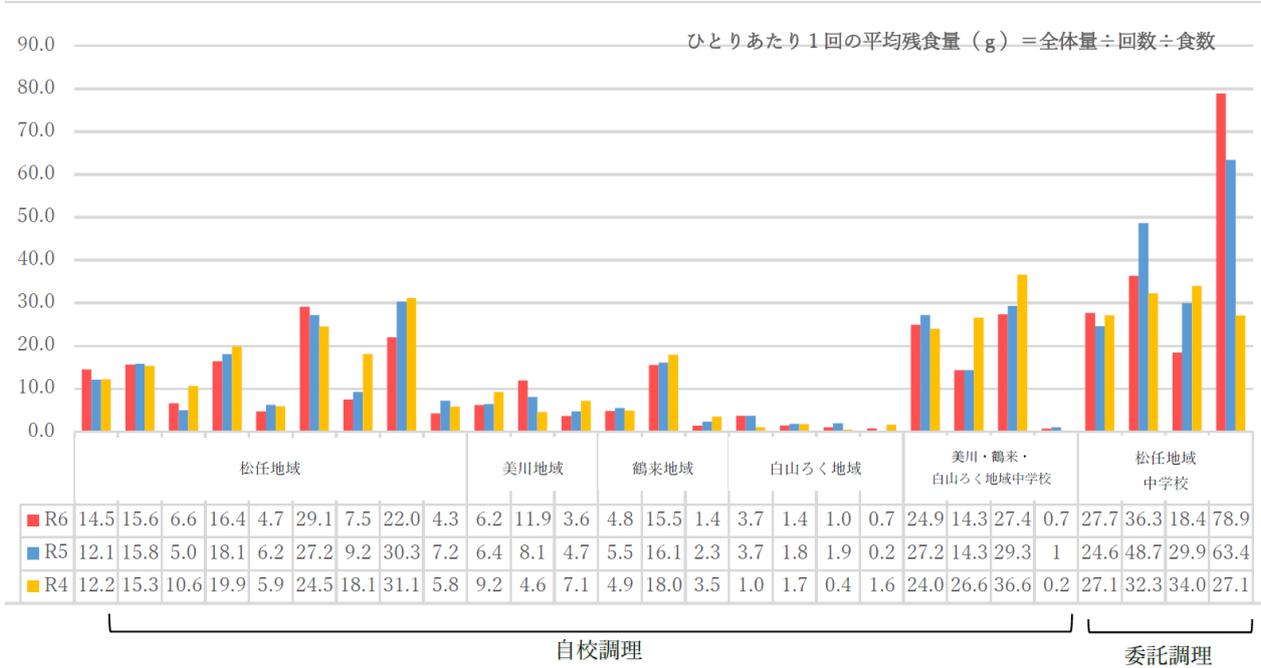
(4) 今後に向けて

年間計画において、食や栄養に関わる学習を行う教科や単元・題材を見直し、教育活動を改善していく。また、そのような単元・題材では体験的な学びを工夫し、食の価値や意義などを実感的に学ばせ、自分自身や家族の食などについて見つめ直す態度につなげる。また、引き続き、学んだことを家庭に発信し、家庭との連携を強めることも重要である。さらに、地域（白山市）の農業の実態や生産者の思い等に触れられる機会を充実させ、豊かな食材を育む郷土の自然や人への感謝の気持ちを育んでいく。

(別紙)

令和4～6年度 残食量の推移について

【R4～R6年度 残食量】



地域別残食量平均

	小学校				中学校	
	松任地域	美川地域	鶴来地域	白山ろく地域	美川・鶴来・白山ろく地域	松任地域
R4	15.8	7.0	8.8	1.2	21.8	30.1
R5	14.6	6.4	13.5	1.9	18.0	41.6
R6	13.4	7.2	7.2	1.7	16.8	40.3

【分析】

(小学校)

- ・松任地域の残食量は他の地域に比べて残食量は多く、山ろく地域はほぼ残食が無く、地域による差はあるが、全体的な傾向としてはR4～R6年度での大きな変化は無い。
- ・各学校においても、残食量の差がある。

(中学校)

- ・自校調理校（美川・鶴来・山ろく）よりも委託調理校（松任）の残食量が多い。
- ・自校調理校の残食量はR4～R6年度で減少傾向が見られる。
- ・委託調理校の残食量はR4～R6年度で増加しているが、各学校による残食量の差が大きい。

(全体)

- ・年度によって残食量の差はあるものの、大きな変化は無い。
- ・小学校で残食量が多いと、中学校でも引き続き残食が多くなる傾向がみられる。

3 読育について

(1) ねらい

読書活動を通じて、思考力や表現力とともに豊かな想像力を養い、感性を育む。全小中学校に図書館司書を配置するほか、デジタルアーカイブや電子図書など、バランスの良い情報技術の活用にもつなげる。

(2) 主な取組

- ①専任の学校司書配置と正規割合の上昇
 - ・正規70.4%（年々正規職員の割合増、若手職員の増）
- ②学校図書館教育の充実
 - ・各教科における授業での図書資料の積極的活用
 - ・読書の質向上と幅を広げる取組
 - ・居場所としての図書館づくり、魅力の創出の工夫
- ③学校司書の研修の充実
 - ・各教科の学習における図書資料の活用推進
 - ・各校の好事例の横展開と学び合い
- ④学校図書館支援センターの機能充実
 - ・係長の配置…図書館運営・読書指導を学校司書へ指導助言
 - ・システムを活用し、市立図書館－学校図書館間の連携推進
 - ・ホームページの充実（図書館を活用した授業の実践事例等）

(3) 学力調査結果等から見る取組の検証

- ①全国学力・学習状況調査 質問調査【単位：％】
 - ・「授業の時間以外に、30分以上読書をする」
小6：28.5(県差-0.9 国差-2.6)、中3：19.7(県差+0.5 国差-1.7)
 - ・「読書が好き」
小6：70.0(県差-1.5 国差+0.3)、中3：64.2(県差+2.3 国差+2.6)
 - ②石川県基礎学力調査 質問調査【単位：％】
 - ・「図書館を利用して勉強することが好き」
小6：76.9（県差-3.6）、中3：74.6（県差+5.1）
 - ・「昼や放課後、休みの日に、週1回以上図書館へ行く」
小6：31.9（県差-3.3）、中3：35.7（県差+12.4）
 - ③R6学校図書館報告 1人あたりの貸出冊数【単位：冊】
小学校：126.1（前年比-11.7）、中学校：30.2（前年比-4.5）
- ※デジタル化の進展や日課変更等により読書時間が減少し、図書館や読書に関わるアンケート結果は国・県・本市においても伸び悩んでいる現状がある。また、学校間差、個人差も大きく、2極化となっている現状もある。

(4) 今後に向けて

図書館（図書）を活用した授業を、どの教師も意識して行うために、学校図書館支援センター係長を中心に、活用の意義（学びの充実、児童生徒の資質能力育成）を実感できるような研修や働きかけを進める。また、読書において、様々な図書に触れることで新しい知識や見方を得ることや、本の楽しさに気づく取組が各校で進むよう、司書部会で各校の好実践を学び合うことを大切にする。同時に、隙間時間を活用した読書習慣を育むことや読書をほとんどしない児童生徒に対し、興味関心や学習状況などを踏まえて個に応じた読書指導を進め、読むことの価値や喜びを感じられる指導・支援を心がける。